

受験番号	
------	--

日本赤十字秋田看護大学大学院
看護学研究科 看護学専攻 修士課程

令和6年度 Ⅲ期 入学試験問題

[小論文]

【注意事項】

- 1 試験時間は60分です。
- 2 受験番号は、この表紙と解答用紙の全てに記載してください。
- 3 質問があるときは、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙および問題文とも、持ち帰ってはいけません。

【問題】

Chat GPT*など、生成AIといわれる人工知能（artificial intelligence: AI）を使って高度で自然な文章を書くことが可能になってきたため、大学などの教育および研究機関でもこれらの適切な使用を模索しているところです。別紙の資料は2023年7月に文部科学省から各大学等に周知された生成AIの教学面の取扱いについての概要です。これを参考にして、大学院生の研究における生成AIの利用について期待されることや問題点をまとめた上で、あなたが考えることを合わせて800字以内で述べなさい。

*Chat GPT: Chat Generative Pre-trained Transformer

米国の企業であるOpenAIが2022年に公開した人工知能ツールで、人間的な会話や文章作成を目指している。

設問の理由：

設問はまず資料を読み解いて的確に要約すること、さらにそれに関する自身の考えを述べることの2段階で構成されており、限られた時間での論理的な文章構成力を見たい。

最近にわかに話題になっている Chat GPT などの生成 AI は各分野でその利活用の議論がなされており、特に教育・研究の場には、受け手としてのみでなく生成 AI 自体の研究や発展を担う役割が期待されている。添付した文部科学省周知概要は大学等に施設として適切な対応を要請するものであるが、その一員となるべく修士課程を受験するにあたり、受験生自身の見解を問いたい。

現在進行している件であり受験生に十分な使用経験がないことも予想されるが、経験談を問うものではないこと、Chat GPT や生成 AI の話題や情報に連日様々な形で触れる機会があること、基本的な情報を資料として配布することから、経験の差が解答に及ぼす影響は有意でないと判断した。

解答や考え方の例：

大学院生の研究に際して生成 AI に期待されることとして、圧倒的な情報量をもとにした文献や資料の検索等の必要な情報の収集、研究するテーマの背景や論点の整理、潜在的なアイデアの発掘などがある。

一方で生成 AI の問題点として、前述の情報や発想を得る過程こそが研究者に求められる学びの本質でもあり、その依存がどこまで容認されるべきかの判断が難しいこと、したがって研究（者）の本来の評価が脅かされる危険があること、もたらされる情報の真偽の検証が難しいこと、機密情報や個人情報の流出の危険や著作権の侵害の懸念があること、などがある。

これらを受けて自身の大学院の研究にどのように活用するかについては、利点を大いに駆使して研究に役立てたい、という積極的立場に対し、現状では未解決の問題も多いのでなるべく依存度を制限したい、という考え方もあると推測する。両者のいずれかの態度を選択するというよりは、生成 AI の長所と短所を理解した上でその発展を常に注視し、最新の情報を求めながら自分なりの利活用を判断し研究者として進歩していく、という姿勢が重要であると考えます。

資料

大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）

趣旨

生成 AI を含む AI の利活用は、経済社会を前向きに変えるポテンシャルがある一方、懸念やリスクも指摘されており、バランスを取りながら進めていく必要がある。

大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いは、具体的に行われている教育の実態に応じて対応を検討することが重要であり、各大学・高専において、学生や教職員等に向けて適切に指針等を示すなどの対応を行うことが望ましい。その際、生成 AI に関する技術の進展や指針等の運用状況などに応じ、対応を適宜見直していくことが重要である。

活動が想定される場面例

- ・ 学生による主体的な学びの補助・支援（ブレインストーミング*、論点の洗い出し、情報収集、文章校正、翻訳やプログラミングの補助等）
- ・ 学生が生成 AI を使いこなすための教育（生成 AI の原理の理解、プロンプト**（質問・作業指示）に関する工夫や出力の検証、生成 AI の技術的限界の体験等）
- ・ 教員による教材開発等への利活用や、効果的・効率的な事務運営

留意すべき観点

- ・ 生成 AI と学修活動との関係性、成績評価
大学・高専における学修は学生が主体的に学ぶことが本質であり、生成 AI の出力をそのまま用いてレポート等を作成することは一般に不適切と考えられること。適切に学修成果を評価するため、生成 AI を利活用したことの明記、小テストや口述試験の併用等の工夫も有効と考えられること等
- ・ 生成 AI の技術的限界

生成された内容に虚偽やバイアスが含まれている可能性があること、内容の確認・裏付けを行う必要があること

- ・ 機密情報や個人情報の流出・漏洩の可能性

生成 AI への入力を通じ、機密情報や個人情報が意図せず流出する可能性があるため、安易に入力することは避けること等

- ・ 著作権との関係性

他人の著作物について、著作権法に定める権利の対象となる利用を行う場合には、原則として著作権者の許諾が必要となること。AI を利用して生成した文章等の利用により、既存の著作物に係る権利を侵害することのないよう留意する必要があること等

- ・ AI 等に関する基礎的な知識等の理解

生成 AI を含む AI の利活用に当たっては、大学・高専の学生等が、最新の動向、AI の普及による可能性とリスク、倫理面やデータリテラシー等を含むデジタル化社会に対応するための基礎的な知識・能力等について理解・習得することが重要であること等

【注釈】

*ブレインストーミング： あるテーマについて複数人が集まってアイデアを出し合ったり問題点を挙げたりすること。

**プロンプト： AI に対して何を生成すべきかを表す指示のこと。

出典：『大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて（周知）』（文部科学省）

(https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf) を加工して作成